

4 徳島県立文学書道館【22,551千円】

文学・書道資料の収集・保存、調査研究に努めるとともに、その成果を展示や催し、教育普及事業等に活かし、広く県内外から親まれる施設となるよう魅力ある事業展開を図った。

(1) 顕彰、表彰事業【1,643千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	第23回とくしま文学賞	<p>広く県民から文芸作品(10部門)を募集し、発表の場を提供することにより、文芸活動の活性化、県民文化の向上を図った。令和7年度は、小説22人、脚本4人、文芸評論9人、児童文学16人、随筆48人、現代詩54人、短歌185人、俳句355人、川柳371人、連句19人の計1,083人から1,939点の応募があった。各部門の入選作品は「文芸とくしま」に掲載し、当館で表彰した。</p> <p>表彰式: 令和8年2月11日(水・祝) 応募者数: 1,083人 応募作品数: 1,939点 会場: ギャラリー</p>	1,642,456
	小計		1,642,456

(2) 年鑑編集・刊行事業【185千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	研究紀要「水脈」22号	<p>館が所蔵する文学者や書家に関する作品や資料などの調査研究を行い、その成果を紹介するために刊行した。</p> <p>B5版サイズ 700部 販売価格: 無料</p>	184,800
	小計		184,800

(3) 教育普及育成事業【4,328千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	文学講座 芸術・文化を語る	<p>徳島ゆかりの芸術家や文化人に専門分野の話をしていただき、心豊かな社会の生き方について考える講座。作曲家の尾形凜斗さん、現代和紙作家の山浦のどかさん、徳島大学名誉教授の井戸慶治さん、作家の待川匙さんの徳島ゆかりの4人が講演した。いずれも専門家ならではの見識と豊富な経験に学ぶところが多く、充実したものとなった。</p> <p>日時: 令和7年6月～9月(全4回) 受講者数: 118人 受講料: 無料 会場: 講座室</p>	408,465
2	文学講座 あなたも小説が書けるー清水良典の創作講座	<p>多くの作家、詩人を育てた清水良典さんによる創作講座。文学賞への応募を目指し、言葉による確かな表現を身に付けた。</p> <p>日時: 令和7年6月～9月(全4回) 受講者数: 96人 受講料: 無料 会場: 講座室</p>	432,820

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	金額(円)
3	第5回 原爆朗読劇 「夏の雲は忘れない」	女優の山口果林さんらが12年にわたって上演し続けた原爆朗読劇を当館が引き継ぎ、毎年上演している。被爆80年となる今年は、長崎原爆の日に上演し、大人の朗読者と鳴門教育大学附属小学校の児童4人が朗読した。参加者からのアンケートでは、世代を超えて語り継いでいくことの大切さを訴える声が多かった。 日時: 令和7年8月9日(土) 受講者数: 135人 受講料: 無料 会場: ギャラリー	450,353
4	第24回言の葉朗読会	開館以来、毎年開催している言の葉朗読会には、11組、総勢16人が出演した。幅広いジャンルの作品が朗読され、群読など工夫を凝らしたものもあり、楽しく充実した朗読会となった。 日時: 令和7年9月14日(日) 受講者数: 45人 受講料: 無料 会場: 講座室	5,050
5	秋の文学講演会 I	「東京都同情塔」で芥川賞を受賞した作家の九段理江さんを招いた。同作にAIを使ったことで、AI作家というイメージばかりが先行しているという話をした。ほか、大手出版社が設ける文学賞のことや、作家を生業とするために必要なこと、小説を書き始めたきっかけ、今後の活動についてなどを語った。 日時: 令和7年10月5日(日) 受講者数: 141人 受講料: 無料 会場: ギャラリー	575,263
	秋の文学講演会 II	徳島のウミガメの産卵地を舞台にした表題作を含む『藍を継ぐ海』で直木賞を受賞した伊与原新さんを招いた。『藍を継ぐ海』のほか、ドラマ化された『宙わたる教室』、女性の地球科学の先駆者・猿橋勝子を描いた『翠雨の人』の三作を中心に、元理学研究者ならではの視点で語った。 日時: 令和7年11月22日(土) 受講者数: 161人 受講料: 無料 会場: ギャラリー	
6	文学から見た人形浄瑠璃	世界に誇る伝統芸能として受け継がれている人形浄瑠璃を文学の視点からひもとく講座。講師は早稲田大学坪内博士記念演劇博物館学芸員で「傾城阿波鳴門」の作者、近松半二の展示も手がけた原田真澄さん。人形浄瑠璃の成り立ちから黄金期、衰退期までを丁寧に解説し、最終回は講義を踏まえ、阿波十郎兵衛屋敷で実際に人形浄瑠璃を鑑賞し、理解を深めた。 日時: 令和8年1月～3月(全3回) 受講者数: 149人 受講料: 無料 会場: 講座室、阿波十郎兵衛屋敷	406,306

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	金額(円)
7	書道講座 現代書家による席上揮毫	現代書壇を代表する書家が作品制作の姿を披露する書道講座。令和7年度の講師は石飛博光氏に師事し、東京を拠点に活動するフリーの若手書家・金敷駿房さん。大作のほか、段ボールや小箱にも揮毫し、制作意図や筆・紙・墨のこだわりを話した。 日時: 令和7年7月27日(日) 受講者数: 134人 受講料: 無料 会場: ロビー	393,242
8	書道講座 書の鑑賞	東京国立博物館での王羲之展など数々の大きな展覧会を成功させ、王羲之の研究でも知られる九州国立博物館館長・富田淳氏による講演会。教科書や辞書には載っていない王羲之の人となりやその評価について、臨場感ある語り口で非常にわかりやすく説明された。「書聖」と呼ばれる現在の認識とは違う人間・王羲之のエピソードに皆引き込まれた。 日時: 令和7年8月30日(土) 受講者数: 85人 受講料: 無料 会場: ギャラリー	185,000
9	書道講座 新春 書き初め 大字に挑戦!	毎年恒例の小学生対象の講座。1年生から6年生まで16人が、伝統文化の「書き初め」にちなんで特大筆(全長46cm、穂の長さ14.5cm×穂の直径4cm)と68cm×70cmの紙を使って大字作品を制作した。初めに当館職員が書き初めの由来や、筆の持ち方、書く姿勢などを説明し、その後約1時間で、各自が書きたい漢字一字を、墨をたっぷり含んで重くなった筆で、体全体を使って揮毫した。最後には迫力のある大字作品が仕上がりに、1月14日から2月1日まで1階ロビーに展示した。 日時: 令和8年1月10日(土) 受講者数: 19人 受講料: 無料 会場: 講座室・実習室	17,810
10	書道講座 書道講演会「「ひょうぐ」ってなんだ? - 作品を彩る仕事「表具」」	書家や画家など、文化人とのコラボレーションを手がけ、表具、修復も行う表具師の岸野田さんを迎えての講演会。表具の歴史に始まり、軸の仕立て方や修復作業について解説した。最後にこれからの表具の在り方にも言及し、現代の生活環境に合う作品の小型化や、他にはないオリジナル性がより強く求められていることを述べた。 日時: 令和8年1月18日(日) 受講者数: 88人 受講料: 無料 会場: ギャラリー	134,579

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	金額(円)
11	書道講座 書道実技講座－近代詩文書	京都市在住の書家で毎日書道展審査会員の八木花海さんによる、近代詩文書の作品制作を行う実践的な講座。受講者が選んだ題材で、訳35cm×67cmの紙に作品を完成させることを目標に講義と実習を行った。「漢字と平仮名の調和」を図るための実習では、瀬戸内寂聴の著書『京まんだら』の題字を制作し、受講者が制作意図を発表。作品の構成や筆使いなどを指導し、最終回に作品が完成した。作品は4月21日から5月17日まで1階ロビーで展示した。 日時: 令和8年2月～3月(全3回) 受講者数: 30人 受講料: 無料・材料費実費 会場: 実習室	117,000
12	ここのはロビーコンサート	文学書道館の存在を知ってもらい、気軽に足を運んでもらうことを目的として開催。各回、徳島ゆかりの演奏家には、言葉や文学にまつわる曲、開催中の展覧会に関わる曲をプログラムに組み込んでもらい、文学書道館ならではの独自性を生み出した。 日時: 令和7年5月～8年3月(全6回) 入場者数: 986人 入場料: 無料 会場: ロビー	1,201,604
	小計		4,327,492

(4) 展示事業 【16,397千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	文学常設展 瀬戸内寂聴記念室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴の人生の歩みと寂聴文学を紹介している。京都・嵯峨野「寂庵」を模した書斎や、心和む日本庭園を設置。年1回程度の展示替えも行っている。 期間: 通年 会場: 瀬戸内寂聴記念室	—
2	文学常設展 文学常設展示室 (常設展示事業)	徳島ゆかりの文学者とその作品、著名作家が徳島を描いた文学作品などをさまざまな角度から紹介している。展示室では、企画展も開催している。 期間: 通年 会場: 文学常設展示室	—
3	文学常設展 収蔵展示室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴寄贈による日本近代女性史の貴重な研究資料など、豊富な資料を保管している収蔵庫内をガラス越しに公開している。また、特別展に関連した展示や収蔵品の紹介も行う。 期間: 通年 会場: 収蔵展示室	—

(4) 展示事業

	事業名	概要	金額(円)
4	書道常設展 書道美術常設展示室 (常設展示事業)	収蔵品の中から、徳島ゆかりの書家の作品を中心に展示している。また、小坂奇石の息づかいが感じられる書齋を再現。年3回、展示替えも行い、豊富な作品を幅広く紹介している。 期間:通年 会場:書道美術常設展示室	—
5	文学特別展 戦後80年 寂聴と戦争 (特別展示事業)	戦後80年の節目に、瀬戸内寂聴の戦争体験と戦後の反戦活動の結びつきを紹介した。小説家となって以降、戦争体験が描かれた小説や随筆を紹介するとともに、戦時中の寂聴の写真などを展示。戦後の活動については、湾岸戦争の際に行った断食や写経、イラク戦争反対の意見広告などを通して、反戦の姿勢を紹介した。 会期:令和7年4月8日(火)～5月25日(日) 43日間 入場者数:381人 観覧料:260円～520円 会場:特別展示室・収蔵展示室	1,178,565
6	書道特別展 書の魔術師 殿村藍田 (特別展示事業)	書家・殿村藍田は、独特の美意識とバランス感覚の上に、高度な技術を駆使した叙情性あふれる作品を発表し続けた。その作品は漢字、仮名、書画の広範に及び、洗練された情調で見る者を魅了する。本展では、2022年に東京で開かれ話題となった初の遺作展出品作を中心に、日展・内閣総理大臣賞を受賞した仮名作品などの代表作をはじめ、中国での個展出品作(日本未発表)など合計97点を展示し、貴重な藍田の揮毫映像も放映した。 会期:令和7年6月14日(土)～8月3日(日) 44日間 入場者数:1,741人 観覧料:260円～520円 会場:特別展示室・ギャラリー・書道美術常設展示室	2,574,640
7	文学特別展 青春の詩歌 (特別展示事業)	胸を焦がす恋愛、既成の社会秩序への反発と挫折。青春時代ほど切なく、繊細で、みずみずしいものはない。本展では、与謝野晶子、斎藤茂吉、島崎藤村から現在活躍中の長谷川權、小池昌代、穂村弘に至るまで、53人の詩人、歌人、俳人たちがそれぞれの時代にうたった青春を直筆の色紙や原稿、写真などを通して紹介した。2014年に日本近代文学館で開催され、大きな反響を呼んだ同展。今回は徳島ゆかりの清水恵子、紀野恵、大高翔の作品や書籍、資料なども加えて展示した。 会期:令和7年8月8日(金)～9月23日(火・祝) 41日 入場者数:857人 観覧料:260円～520円 会場:特別展示室・収蔵展示室	2,696,378

(4) 展示事業

	事業名	概要	金額(円)
8	書道特別展 小坂奇石ベストセレクション 併催／県内書家作品展「奇石の言葉を書く」 (特別展示事業)	美波町出身で、昭和時代に活躍した日本を代表する書家・小坂奇石。本展では、館蔵の奇石作品の中から、日展・文部大臣賞受賞作や現代書道二十人展出品作といった珠玉の31点を展示したほか、作品の見どころや魅力を短い言葉でまとめた見出しパネルを設置し、初めての人にも分かり易い展示に努めた。また、ロビーでは「奇石の言葉を書く」と題し、奇石が遺した言葉を県内書家が揮毫した作品展を併催。前期・後期の二期に分けて10点ずつ展示し、揮毫者の制作意図とともに紹介した。 会期:令和7年10月4日(土)～11月16日(日) 38日間 入場者数:638人 観覧料:260円～520円 会場:特別展示室・書道美術常設展示室 併催展／1階ロビー	1,715,945
9	文学特別展 鳴門を描いた文学 (特別展示事業)	四国の東端に位置する鳴門は、その雄大な自然や歴史から多くの著名な作家や詩人、歌人、俳人たちを魅了してきた。本展では、これまで文学に描かれてきた鳴門の姿を「渦潮」「霊山寺」などの10テーマに分け、数々の資料とともに紹介し、その魅力に迫った。28名の文人による小説、エッセイ、短歌、俳句を紹介したほか、直筆原稿など96点の物品を展示した。 会期:令和7年12月12日(金)～ 令和8年2月11日(水・祝) 46日間 入場者数:322人 観覧料:260円～520円 会場:特別展示室・収蔵展示室	2,859,423
10	書道特別展 高木厚人 仮名で景色を創る (特別展示事業)	高木厚人は、師・杉岡華邨の書風を基盤としつつ、書による自己表現と現代性を追求した仮名作品を制作し、日本を代表する書家の一人として活躍している。本展では、これまでの代表作や、西行の和歌を題材に今回の特別展のために制作した大作「西行の森(Ⅱ)」など、新作15点を含む32点を展示し、独特の力強い筆致と巧みな墨色の表現が織りなす独自の世界を紹介した。また、ロビーでは大阪・関西万博での席上揮毫映像を放映した。 会期:令和8年2月15日(日)～3月22日(日) 31日間 入場者数:571人 観覧料:260円～520円 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	3,713,051
11	企画展 作家たちの見た万博 (企画展示事業)	大阪・関西万博にあわせて開催した企画展。これまで世界各地で開かれてきた万博を作家たちのまなざしを通して振り返った。福澤諭吉、渋沢栄一、夏目漱石、手塚治虫、岡本太郎、司馬遼太郎、瀬戸内寂聴、柴門ふみといった作家や文化人たちは、実際に会場を訪れたり、企画に携わったりしながら、自らの体験を小説、随筆、日記、詩などに書きとめた。それらを当時の写真などととも紹介し、万博が映し出す時代の空気や未来への期待を感じてもらおう契機とした。 会期:令和7年6月28日(土)～9月23日(火・祝) 76日間 入場者数:2,775人 観覧料:100円～310円 会場:文学常設展示室	591,728

(4) 展示事業

	事業名	概要	金額(円)
12	企画展 中林梧竹－自作の漢詩 (企画展示事業)	主に明治時代に書家として活躍し、現代にも通じる芸術的な作品を残した『明治の三筆』の一人、中林梧竹。当館では開館以来、毎年、梧竹の展覧会を開催し、梧竹作品の魅力を紹介している。今回は館蔵品のうち、梧竹が自ら詠んだ漢詩を題材にした書作品20点(うち初公開5点)と関連資料3点を展示。各作品の漢詩は「書き下し文」と「現代語訳」を展示し、漢詩の内容を味わってもらいながら、梧竹の多彩な作品を紹介した。 会期:令和7年8月5日(火)～9月28日(日) 48日間 入場者数:1,113人 観覧料:100円～310円 会場:書道美術常設展示室	352,024
13	書道企画展 第10回 書道創作グランプリ－手本のない“実力”作品展 (企画展示事業)	徳島県内の小学4年生から高校生までを対象とする書道コンクール。作品応募による予選を行い、予選通過者を対象に当館で本選を実施。本選当日に課題を発表し、お手本なしで創作する全国でも稀なコンクールである。今回は席書作品255点と招待参加者(これまでのグランプリ受賞者、準グランプリ2回受賞者)の作品を展示し、各学年・部門のグランプリ、準グランプリ、優秀賞受賞者71人を表彰した。表彰式後、四国大学の学生が書道パフォーマンスを行った。 会期:令和7年11月29日(土)～12月7日(日) 8日間 入場者数:549人 観覧料:無料 会場:ギャラリー	714,442
14	祝・文化功労者 竹宮恵子原画’ (ダッシュ)展 (企画展示事業)	2025年度の文化功労者に徳島市出身の漫画家・竹宮恵子氏が選ばれたというニュースを受けて急遽企画した。2006年に当館に寄贈された原画’(原画をコンピューターに取り込み、竹宮氏自身が色調整を重ねたもの)のうち14点を展示した。「風と木の詩」「地球へ…」などで一時代を築いた竹宮さんの美しく壮大な世界を多くの人が味わっていた。 会期:令和7年11月3日(月・祝)～30(日) 24日間 入場者数:925人 観覧料:100円～310円 ※11/3～16は関西文化の日・とくしま文化推進期間のため無料 会場:文学常設展示室	—
	小計		16,396,196
	合計		22,550,944